

## これまでの50年，これからの50年

濱 口 晴 彦

戦後50年とよく言われますが，このように言われるのは年数の区切り方が一区切りとしてほどよいからでしょうが，今から50年前を振り返ってみると，ほどよい区切り以上のものがそこから見えてきます。

今年定年をお迎えになるスポーツ科学科の大澤慶己先生と中村茂先生，人間健康科学科の山本多喜司先生の3人の先生は50年前20歳になられたときで，人生を自分で創り出していくスタート台に立たれた，それが50年前であったこととなります。したがって，今日まですごされてきた50年の歳月に，それはそれは沢山の思い出を刻まれてきたことと思います。1945年8月15日の敗戦。これも思い出の1つというにしては大き目の1コマであったのではないのでしょうか。

20歳になったばかりの当時青年であった3人の先生にとって大変良い出来事であったのではないのでしょうか。このことにより死ぬべき宿命から生きるべき運命へ，サイは投げられ吉と出たのですから。川柳風と言えば「昔は死ぬ今は生きよと国がいい」という風潮の昔と今を絶対的に区切って見せてくれたのですから。しかも，規範の根拠として憲法第9条で戦争はもうしませんと宣告したのですから。こうして3人の先生は今日定年を迎えることが事後であるにしても，確約されたのですから。

にもかかわらず，その後も日本と地理的に近いところでも世界史的な戦争が激しく戦われ，世相に濃い影を落としていました。1950年から3年間つづいた朝鮮戦争，1961年のベトナム戦争と1963年からそれへのアメリカの本格的介入などがあり，現在なお遠くで近くで戦火の止むことなく，生きる理由よりも死ぬべき理由を正当化しています。

1987年4月，人間科学部が開設されましたが，この門出を祝福するかのようには，この年は不思議なことに新しい大がかりな戦争がなかった年です。しかもこの年は愛とか Love という言葉が人びとに好んで迎えられていました。女の子どもの名前として人気第1位は愛，2位は愛美，3位は沙織でしたから，人びとは人間への暖かい関心を強く抱いていた年だったと言えそうです。チェッカーズによって“I Love You”がヒット曲になっていました。こうした人間賛歌は，愛の反対語である人間への無関心(と私は考えます)を抑えこんでいました。

人間科学部は3人の先生が学則により去られることから何かを失うこととなります。大学こそ人は石垣，人は城を名実ともに実感できる場所だからです。そこは事を成すは中，人を育てるは上を唯一の基準にしている場所だからです。3人の先生が去られてしばらくすると，このことの大きさを否応なしに気づかされるはずです。しかし，この空隙を埋める努力を尽くさねばならないし，また尽くすことによって，3人の先生が人間科学部のことを回顧されるときには，肯定的に首肯していただけるようにすることで，これまでの3人の先生方の学恩に報いたいと考えています。

戦後の50年は昔のことになりましたが，人間科学部は創立以来10年を経て，人間科学部の50年を刻みつつありますので，ことの成り行きに時にはご注目いただきたいと願っています。